



愛媛県美術館ニュースNo.66 2023
発行日＝令和5年7月20日
編集・発行＝愛媛県美術館
※所蔵先の表記のないものはすべて当館所蔵作品



県立美術館時代の
初代警備犬をモチーフにした
マスコットキャラクター
「キヨ」(左)と「ダイ」(右)

愛媛県美術館開館25周年記念

海洋堂展

創るたのしみをすべての人に行こうよ

「愛媛県美術館」となって25年目の記念すべき夏を彩るのは…
フィギュア製作会社「海洋堂」です。

2023年7月22日(土)～9月18日(月・祝) 本館2階 [常設展示室1・2]

遡ること20年ほど前、「チョコエッグ 日本の動物コレクション」シリーズを皮切りに、食玩(おまけ付きのお菓子)ブームが巻き起こりました。その火付け役となったのは、モチーフとなるキャラクターの人気だけではなく純粋な「造形力」で勝負する!という職人魂に燃える海洋堂だったのです。私も幼い頃、チョコの中からまるで生きているかのようなカエルが出てきて驚いたことを覚えています。

大人気となった「日本の動物」シリーズや、そのほか海洋堂が製作するネイチャー系フィギュアの原型の大部分を手がけるのは、造形師・松村しのぶ。彼がカプセルトイを製作する際に描いたスケッチの原画を本展覧会で初公開します。愛媛県総合科学博物館所蔵の二ホンカワウソの剥製と、松村制作の二ホンカワウソ等身大フィギュアが共演する展示ケースも必見です。

また、フィギュアの「色」をつかさどる塗装師の仕事も見逃せません。精密に、かつ質感が伝わるように、工場に色の指定を行うための色見本(ペイントマスター)を制作します。キャラクターものであれば、細かな色味の確認と調整を版元さんとのやり取りの中行う工程がかかせません。塗装師の古田悟郎や清水ゆう子へのインタビューの様相を収めた映像もお見逃しなく。

このほか、創業当時の歴史を資料や写真とともに振り返ったり、「ワンダーフェスティバル」や新シリーズ「ARTPLA」など、造形を愛する者たちの中心に位置し続ける海洋堂の取り組みにも注目します。どこまでも走り続ける海洋堂の魅力を知っていただければ幸いです。(金成 めい)



「アマルガサウルス」
原型制作:松村しのぶ
塗装:古田悟郎



「カワセミ」
原型制作:松村しのぶ



「1976年頃、全国一周キャラバンを敢行」



「つぶやき」

憧れだった学芸員になって、3か月あまりが経ちました。美術館にいらした際は、何がいちばんグッと来たか、作品でも、解説文でも、展示空間でも、なんでもアンケートや職員を通して教えてください!これからも皆さまに愛される美術館を目指して頑張ります!(宇野 茉莉花)

愛媛県美術館開館25周年記念

海洋堂展

創るたのしみをすべての人に行こうよ

2023年
7月22日[土]～9月18日[月・祝]

開催時間 9:40～18:00(入場は17:30まで)
会場 愛媛県美術館本館2階常設展示室1・2
休館日 7月24日(日)、25日(月)、8月6日(日)、14日(日)、23日(日)、24日(月)、25日(火)、26日(水)
※「愛媛県美術館」の休館日と重なると、休館日となります。詳しくは本館までお問い合わせください。
※「愛媛県美術館」の休館日と重なると、休館日となります。詳しくは本館までお問い合わせください。
※「愛媛県美術館」の休館日と重なると、休館日となります。詳しくは本館までお問い合わせください。

愛媛県美術館
7700-0007 愛媛県松山市本町2丁目 TEL: 089-933-0010 <https://www.shimane-art.jp/>



「つぶやき」

今年から美術館で働き始めて約半年経ちます。まだまだ分からない事が多々ありますが、お客様の喜ぶ姿をたくさん見たいと思っています。また美術館に行きたいと思っていただけるように精一杯美術館での仕事を頑張りたいと思います!(清水 明日香)

コレクショントーク① そして、コレクショントーク②!



愛媛県美術館では20年ほど前から、京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センターに学びながら、「みる・考える・話す・聴く」を基本とする対話型鑑賞プログラムを実践しています。対話型鑑賞とは、鑑賞者同士のコミュニケーションを通じてアート作品を読み解いていくことで、鑑賞に必要な能力を育成していく鑑賞教育プログラムです。県美ではこれまで所蔵品を用いた対話型鑑賞プログラム「コレクショントーク」を行ってきましたが、令和5年度4月より、今まで1つだったコレクショントークを2つに再編してスタートしました。

一つ目は毎月第1日曜日の午後2時から始まるコレクショントーク①です。こちらは、毎月一回、所蔵品展に展示中の作品2点を取り上げ、作品の見方について楽しく学びます。鑑賞の進行役は県美作品ガイドボランティアスタッフがを行います。次にコレクショントーク②は、毎月第3水曜日・日曜日の、同じく午後2時から開催しています。こちらは1年を通じてじょじょに鑑賞する「筋肉」が鍛えられていくよう、約1万点ある美術館の所蔵品の中から作品を選んで、毎月鑑賞する順番を組んでいます。なお、コレクショントーク②は、水曜日と日曜日は同じ作品を鑑賞します。どうぞ参加しやすい曜日においでください。展示室では「目鱗（めうろこ）」（目から鱗の意）でした!と笑顔で鑑賞後の感想を語って下さる利用者や度々遭遇しています。美術館で、皆で一緒に「みること」を楽しんでみませんか? (鈴木有紀)



共催展

石村嘉成展

いきものだいすき

2023年7月15日(土)～9月10日(日) 本館1階[企画展示室]

自らの障がいと向き合いながら創作活動を続ける、新居浜市在住のアーティスト・石村嘉成。熱心な観察と自由な想像力によって表現された、色鮮やかで力強い生きものたちの姿は、「生命」そのものの躍動を伝えてくれます。挑戦を続ける石村の軌跡と最新の活動を紹介します。全長26メートルにもおよぶ大迫力の新作《Animal History》も展示します。(長井 健)

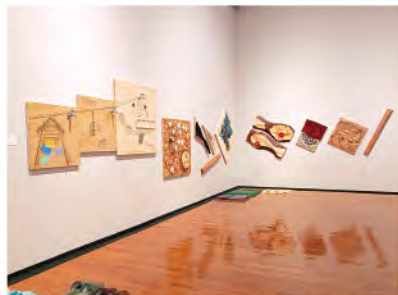


《Animal History》(部分) 個人蔵

令和4年度 新収蔵品紹介

昨年度、柳瀬正夢や山本雲彦など愛媛出身作家の作品や、展覧会を契機に所蔵に至った作品など多種多様な13点がコレクションに加わりました。

展覧会がきっかけとなった作品として、まずは、三輪田米山の書。令和3年度に開催した回顧展での米山顕彰が、今回、優れた作品の収蔵へとつながりました。続いて、昨年度開催した「みる冒険 ゆらぐ感覚」に出品した光島貴之と八木良太の作品。両名の作品は、普段意識していない感覚と向き合うことで、新たな気付きやもの見方を広げてくれます。また、光島の作品は、展覧会において当館が制作依頼し、視覚以外の感覚で捉えた町を手で触る作品として表現したもので、当館で触ることのできる収蔵作品の第一号となりました。そして、今年度開催予定の瀬戸内海国立公園指定90周年記念展の調査から掘り起こされた矢崎千代二のバステル画も展覧会に先駆けて収蔵しました。(石崎 三佳子)



光島貴之《松山まち歩き 何を求める風の中ゆく》2022(令和4)年
制作協力:アトリエみつしま
協力:株式会社高麗木材工業所、IDEA R LAB、スタジオぐるり



矢崎千代二《瀬戸内海》1935(昭和10)年

コレクション展

没後50年 木和村創爾郎と大宮昇

今年、ふたりの松山生まれの版画家が没後半世紀の節目を迎えました。

木和村創爾郎(1900-1973)は、日本画から木版画に転向し、1960年に棟方志功らと日本版画会を創立。70歳目前で初渡欧を果たすと、フランスでも活躍しました。幾何学的な線刻と鮮やかな色で構成された風景画からは、独自の感性が伺えます。

大宮昇(1901-1973)は、石版や銅版等の技法により、「炭山画譜」をはじめ、人々の暮らしに寄り添った、柔らかな線が特徴的な作風を確立しました。1939年には畦地梅太郎らと新版画会を組織し、1957年に帰郷後は、松山を主題とした作品も数多く残しています。特集展示の畦地梅太郎作品とあわせて、版画の面白さがぎゅっとつまった夏のコレクション展をお楽しみください。(喜安 嶺)



大宮昇《すいかと少年》1957(昭和32)年



木和村創爾郎《潮来初夏》1953(昭和28)年

愛媛県美術館開館25周年記念

企画展

ヨハネ・パウロ2世 美術館展

2023年9月23日(土)～11月26日(日)
本館1階 [企画展示室]

ポーランドの首都ワルシャワにあるヨハネ・パウロ2世美術館は、同国の個人コレクションとしては最大級の規模と質の高さを誇るポルチェンスキ・コレクションで知られています。本展では、その多彩な女性像に着目し、ルネサンス以降400年にわたる西洋絵画史を代表する名匠たちの逸品61点を、3章に分けて展覧いたします。

第1章「母と子」では、キリスト教の聖母子から世俗の母子まで、様々な親子の愛のかたちを探ります。続く第2章「神話と伝説」では、聖書や古代神話、古典文学に取材した作品など、時をこえて読み継がれる物語のヒロインたちの生き様にフォーカスします。そして第3章「肖像」では、時代ごとのトレンドを映しつつ像主の個性と画家の個性が織り成す女性像の、人間的魅力に迫ります。

じっくりご覧いただきたい作品の一つが、本展図録の表紙を飾るレンブラント《髷襟を着けた女性の肖像》。髷を寄せて糊付けした飾り襟の白さが眩しい作品です。でんぶん糊の輸出国でもあったオランダをはじめヨーロッパ諸国で16～17世紀に流行したリュクスな髷襟は、未曾有の繁栄を謳歌した大航海時代の華やきを今に伝えます。本作に見られるタイプの襟は、その形状から「石臼襟」とも呼ばれました。白襟に血色の良い顔がよく映え、心身ともに充実した女性の健康的な美しさが引き出されています。



レンブラント・ファン・レイン《髷襟を着けた女性の肖像》1644年、ヨハネ・パウロ2世美術館蔵



ウィリアム＝アドルフ・ブーグロー《美しいブルネットの女性の肖像》1898年、ヨハネ・パウロ2世美術館蔵 ©Museum of John Paul II and Primate Wyszyński

他方、本展図録の裏表紙を飾るのは、ブーグロー《美しいブルネットの女性の肖像》。フランス語で「水仙、自己陶醉者」という意味の《ナルシス》と題されていたこともある作品です。自らの美を自覚して嫣然と笑う満足気な女性。アカデミシャンならではの洗練された技巧で水仙の花から豊かな髪までディテールを描破しつつ、眼差しに余情を託して、奥行きのある複雑な人物像を立ち上げさせています。

美のプロフェッショナルたちがさまざまな形でインスピレーションを得てきたミュージズとしての女性たち。その表象の華麗なる歴史的展開を、どうぞご覧ください。(武田 信孝)

Collection from
the Museum of John Paul II
and Primate Wyszyński

つぶやき



着任して約3か月、日々新鮮な気持ちで勤務しております。祖母の影響で幼い頃から俳句に親しんでいたため、古くから俳句の盛んな本県で文化事業に携われることをとても嬉しく思います。新たな人やモノとの出会いを大切に、これから精一杯励んでまいります！(岩本 成美)

つぶやき



4月より愛媛県美術館に参りました。専門は「近代の日本画」で、アトリエやWSなどの活動にも携わらせて頂きます。最近の関心事は、展示作品とキャプションの関係性や作品情報の提示方法についてです。初めての事尽くして緊張の日々ですが、精一杯頑張ります。(横尾 真絆)

森のなぞなぞ美術館Ⅳ

「年輪＝時間」

2023年9月30日(土)～11月19日(日) 本館2階 [常設展示室2]

美術館では令和2年度より、森林環境税を活用した「アートの森プロジェクト事業」をスタートさせました。第四弾となる今年度は、ねりんピック愛顔のえひめ2023が開催されるのに合わせて、「年輪＝時間」をテーマにした、学芸員選りすぐりのアート作品で構成した展覧会を開催します。「時間」と聞くと、皆さんはどんなモノやコトをイメージされるでしょうか？時計、カレンダー、年齢、スピード、重なり、動き、そして…振り返ること、等々。

さあ、今年の秋は、「時間」の森の中を漂って、彷徨って、探検→発見！（鈴木有紀）



正岡子規《喫茶去》1895(明治28)年



畦地梅太郎《老スキーヤー》1955(昭和30)年

施設紹介



ハイビジョンギャラリーが 多目的ルームとしてリニューアルされました！

昨年度当館では、講堂のブラインド改修や研修室の大型スクリーン設置、トイレの洋式化など様々な改修を行いました。その中で今回は多目的ルームをご紹介します。

本館1階エントランス南側に位置する多目的ルームをご存じでしょうか？この場所は昨年度までハイビジョンギャラリーとして使用しておりましたが、機器が老朽化し映像鑑賞スペースとしての活用が難しいだけでなく、固定式の椅子がワークショップの活用も妨げている状態でした。固定式の椅子の撤去、有機ELテレビの設置、音響機器の更新等を行ったことにより、デジタル映像の投影やワークショップとしての活用など、多目的なスペースとしてリニューアルすることが出来ました。新しくなった多目的ルームを活用した事業にご期待ください。(神田 亜紗子)

topics

グーグル・アーツ・アンド・カルチャー

当館は2023年3月、世界中のアートや文化とこれにまつわる物語をオンラインで紹介するGoogle Arts & Cultureウェブサイトにてパートナーページを開設いたしました。所蔵品の一部の高解像度デジタル画像と作品データ、オンライン展示「日本の四季」を公開しております。遊び心のあるモバイルアプリもチェックのうえ、お好きな場所で時間を気にせずお楽しみ頂ければ幸いです。(武田 信孝)



<https://artsandculture.google.com/partner/ehime-museum-of-art?hl=ja>

祝！開館25周年！

愛媛県美術館は今年開館25周年を迎えました。11月19日(日)は開館記念日イベントを開催！ミュージアムコンサート他様々な催しを予定しています。また、当館のコレクションも節目の誕生日を記念したスペシャル企画でご紹介します。

学芸員の 仕事道具

保存の道具「ヒンジ止め」

版画や水彩の紙作品を額装する際に、窓あきのマットに作品を挟みます。その際、マットに小さな和紙で作品を貼り付けることを「ヒンジ止め」といいます。安全かつ可逆性(取り除くことも容易)があるため、美術館ではこの方法がとられます。

一番大きなボトルは「メチルセルロース」。その粉と精製水から3日間かけて糊を作ります。手製の「竹へら」は紙を剥がしたり、位置を整えたりするのに使用し、薄美濃紙のヒンジは片辺をくい裂き(繊維を残し)にして作品への接着を良くします。(田代 亜矢子)



であうつながるひろがる—アートの宝石箱—

愛媛県美術館

<https://www.ehime-art.jp/>
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
tel.089-932-0010 fax.089-932-0511



ご利用案内

- 開館時間 9:40～18:00(入室は17:30まで)
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29～1/3が休館日)

編集後記

長い時間をかけて実現した大竹伸朗展。大竹さんの作品が持つ力はもちろんのこと、多くの力が集結した圧倒的なエネルギーに満ちた展覧会となりました。25周年の記念すべき今年度、今後の展覧会もお楽しみください。(杉山 はるか)